

建設経済常任委員会行政視察研修報告書

建設経済常任委員会では、令和6年5月15日（水）～17日（金）の日程で埼玉県川越市、千葉県君津市、神奈川県横須賀市を視察して参りました。参加者は小堀 勇人委員長、岡村 浩雅副委員長、角田 憲治委員、若見 孝信委員、加藤 朋子委員、高瀬 一徳委員、執行部職員2名、及び事務局職員1名です。

最初の視察先、川越市では「歴史的建造物を活かした観光振興策」について、2日目は君津市での「ドローンを活用した橋梁点検事業」について、3日目は横須賀市での「農福連携」についてそれぞれ研修しました。

埼玉県川越市

○「歴史的建造物を活かした観光振興策」について

川越市は面積109.13km²、人口354,346人（R6.4.1）、江戸時代には親藩・譜代の川越藩の城下町として栄えた都市で、「小江戸」（こえど）の別名を持っています。城跡・神社・寺院・旧跡・歴史的建造物が多く、文化財の数では関東地方で神奈川県鎌倉市、栃木県日光市に次ぐ数でもあります。歴史まちづくり法により、埼玉県内唯一、国から「歴史都市」に認定され、戦災や震災を免れたため歴史的な街並が残っており、市内の観光名所には年間約732万人もの観光客が訪れる観光都市であります。

参考になった点

- 川越の大火（明治26年）によって蔵造りの耐火性が証明され、明治後期に数多く建てられた。昭和後期に取壊しも進んだが、市民による歴史的建造物保存運動に連動し、行政も連動して平成初期に電線地中化や歴史的地区環境整備地区（歴みち）事業を実施した。
- 所管である観光課の歳出予算の約25%を占めるのが、「川越まつり」に対する支出である。「川越まつり」は、毎年10月第3日曜日とその前日に実施される。昨年は3年ぶりに実施され、来場者数は57万4000人であった。前回2019年の88万1000人より30万人以上減ったが、祭りを盛り上げることで、「小江戸 川越」の名前を浸透させているように思えた。
- 川越市は東武鉄道、西武鉄道、JR 東日本と3つの駅があり、交通渋滞対策のためこれら鉄道事業者と連携を図り、公共交通での来訪を促進している。又、市南部にある鉄道駅と北部の観光地がループバスで結ばれており、自転車シェアリングサイクルポートが市街地の各所に設置されており、観光客の移動手段ともなっている。
- 着物レンタル店で手軽に着物での街並み散策を楽しめる工夫がされている。
「きものが似合うまち川越」を合い言葉に、毎月8, 18, 28日を「川越きものの日」とし、着物で飲食、買い物等すると優待サービスを受けられる仕掛け作り。
- インスタ映えスポットの創出がされている。市内各所に「いい感じ」「きれい」と思わせる仕掛けがされている。外国人も盛んに写真を撮っていた。
- web と sns の使い分けがうまくなされている。web では、ランチ、お土産、散策ルートなどで固定した情報を発信している。一方、sns では、今日のイベント、まつりの様子

などのリアルタイム情報を発信している。又、こういったリアルタイムな情報に対しての反応は良いとのこと。

○インバウンド対策は、見せる観光から体験できる観光へ。一般社団法人 DMO 川越により「小江戸川越の文化体験ツアー」にファミトリップを実施している。

※ファミトリップ→インフルエンサー（SNS でフォローしている人が多い人物）や旅行代理店向けの現地視察ツアーを企画して、ブログやメディア、その他のコンテンツにおいて外国人向けに発信してもらうという手法。

課題点

○車の通りの多い道路沿いに歴史的建造物が並んでいる。車と歩行者が近接しており危ないので、さらなる歩行者保護対策の必要性がある。

○実際にまち歩きして、観光スポットがどこか分かりづらい（～まで何分、との表示）

○観光マップには、観光名所、バス停留所、市内施設等がすべて網羅されているが、目的別の散策マップの方が見やすい。

執行部への提案

○氏家・喜連川の街中など、道路改良工事等に合わせた景観の創出（石畳風舗装等）による観光客の周遊につなげる仕掛けづくり。

○ソフトの充実。観光協会に対し web と sns の使い方を勉強してもらい、欲しい情報をすぐに得られる使い方。

○インスタ映えスポットの創出、着物レンタル店を誘致し、着物で街歩きできる環境の整備。

○ファミトリップの活用。まずは外国人自ら体験してもらい、その結果を SNS で積極的に発信してもらう。



千葉県君津市

○「ドローンを活用した橋梁点検事業」について

人口は約 79,032 人で面積 318.78 km²です。東京湾沿いは木更津港の君津地区に位置し日本製鉄（旧八幡製鐵・新日本製鐵）を中心とする重工業地域であり、市街地も君津駅を中心とした沿岸部に集中しています。内陸部の久留里地区は J R 久留里線が通り、江戸時代に久留里藩の城下町として栄え、歴史的町並みが残されています。

君津市では、進展する人口減少と少子高齢化などを背景にドローンを活用したまちづくりに取り組んでいます。その中で、ドローンを活用した橋梁点検「君津モデル」を確立し、その導入により、動画による橋梁全体像の把握や交通規制の緩和など様々な効果が期待されます。

また、研修を受けた市職員自らがドローンの操縦・撮影を行っていることから、橋梁点検だけでなく様々な分野への応用も期待されます。

ドローンの活用による効率的・効果的な橋梁点検実施に向けた取り組みを視察し、本市の参考と致します。

参考になった点

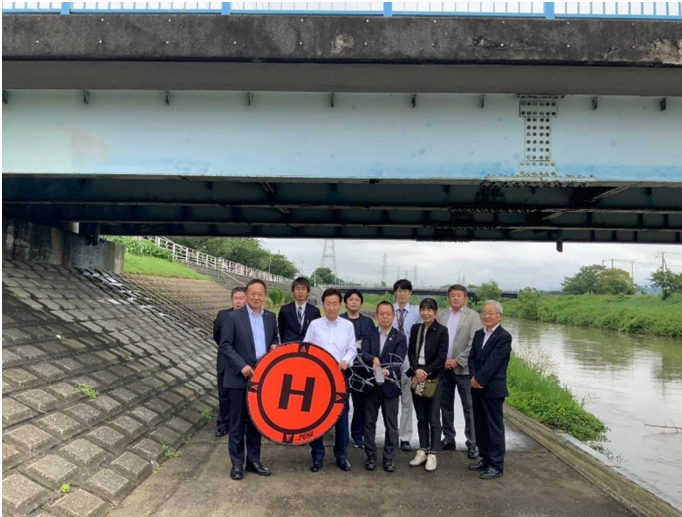
- ドローンの活用により、予防保全が可能となり 50 年後の保全費用が約半額で済む。
- 今までは、道路橋定期点検は 5 年に 1 回すべての部材を近接目視し 4 段階で判定していた。また点検時の交通規制や損傷の見落とし、業務委託費用の増大等と課題があった。そこにドローンを活用し、これら課題解決に当たった。
- ドローンでの点検実証実験は、ドローン業者、データ保管の業者、AI を用いた損傷箇所探知する業者、AI 学習のためのアドバイスを得るための、地元木更津高等専門学校の 5 者による協力によるもの。
- 新たな業者との連携でさらに高度な活用を実現（ジャパン・インフラ・ウェイマーク社）
360° 撮影可能なドローン

課題点

- 膨大な映像データの保管方法をどうするのか。
- ドローンでも撮影ができない範囲があるので、そういった箇所の点検はどうするのか（今までのような近接目視による点検を併用）
- ドローンの操作技術の向上、資格取得へのハードル

執行部への提案

- さくら市での「ドローン活用チーム」の効果的な運用、活用
- さくら市での課題解決のためのドローン活用
- ドローンの操縦技術向上のための飛行時間確保、資格取得への支援
- ドローン活用分野の拡大



神奈川県横須賀市

○「農福連携」について

横須賀市は、神奈川県南東部の三浦半島に位置する市で中核市に指定されています。人口は371,930人、面積は100.81km²で中核市に指定されています。

東京湾の入口に位置するために江戸時代から国防の拠点とされ、戦前には大日本帝国海軍横須賀鎮守府や横須賀海軍工廠を擁する軍港都市（軍都）として栄えました。幕末には市内東部の浦賀にペリーが来航したことでも有名です（黒船来航）。現在もアメリカ海軍第7艦隊・横須賀海軍施設および海上自衛隊自衛艦隊・横須賀地方隊および陸上自衛隊武山駐屯地・久里浜駐屯地や航空自衛隊武山分屯基地などの基地が置かれており、かつての軍都・軍港としての名残を多く残しています。また自衛隊関係の教育施設（防衛大学校、陸上自衛隊高等工科学校）も置かれています。

横須賀市では、農業分野での障害者の雇用創出を連携して推進していくことを目的として、パーソルダイバース 株式会社と平成30年6月に「農業と福祉との包括的な連携推進に関する協定書」を締結しました。自治体と特例子会社による農業分野での障害者雇用促進の協定は、全国初の試みであります。

協定書に基づき、「よこすか・みうら岬工房」が設立され、障害者雇用の大きな受け皿になることが期待されています。また、農業分野における人手不足や耕作放棄地の解消に繋がる可能性も考えられます。

これらの状況を視察し、本市における農業分野の課題解決に向けた取り組みの参考に致します。

参考になった点

- 行政主導ではなく、企業主導による農福連携
- 特例子会社等設立支援補助金の設立
- 横須賀市障害者雇用奨励金の設立
- 障害のある中学生への農業就労体験の開催

○農福連携の取り組みおよび受け入れに対する周知を図るため「農業と福祉の連携推進ガイド」の作成・発行

問題点

- 障がい者本人と作業との相性マッチングの難しさ
- 周りの人の理解
- 作業内容の充実、確保（常に仕事のある状態をつくる）

執行部への提案

- 企業と連携した農福連携事業の創出
- 障害者雇用奨励金制度の創設
- 障害のある小、中学生に対する農業就労体験の実施

